

大正大学図書館蔵 『源氏物語（承應三「一六五四」） 六十卷』  
『源氏かるた絵合』 『源氏物語かるた』 『源氏物語絵巻』 解題

春日美穂  
林田徹順  
三浦諒子  
小菅あすか

はじめに

大正大学図書館には、『源氏物語』（写本、室町時代後期）をはじめ、『源氏物語』に関する貴重書、準貴重書が所蔵されている。今回は、そのうちの『源氏物語（承應三「一六五四」）六十卷』『源氏かるた絵合』『源氏物語かるた』『源氏物語絵巻』についての報告を行う。

詳細は解題として以下に掲出するが、今回の調査により、『源氏かるた絵合』が河鍋暁斎の作であると判明したことは大きな成果であった。大正大学図書館が所蔵する『源氏かるた絵合』は保存状態が非常に良く、河鍋暁斎の作品を知る手がかりとしても重要な資料である。調査の過程において『源氏かるた絵合』が河鍋暁斎作ではないかと推測し、河鍋暁斎美術館への問い合わせを行ったところ、河鍋暁斎のひ孫にあたる河鍋楠美氏より暁斎作であること、成

立年代、五十四枚の札や箱は今までに確認されたことがなく、貴重なものであることなどのご教示を得た。今回の調査で河鍋暁斎の作であることが明らかとなり、本稿でそれを示すことで、今後、美術史の観点からも調査研究がなされることが望まれる。

『源氏物語（承應三〔二六五四〕六十巻』は、いわゆる『絵入源氏』といわれるもので、『源氏物語』五十四巻と、『山路露』、『源氏目案』三巻、『源氏系図』、『引歌』の六十巻がすべて状態の良いままそろっているという点で貴重なものである。

『源氏物語かるた』は、国文学研究資料館をはじめとし、各地に所蔵されているものの一つである。やはり欠けることなく全巻の札がそろっており、状態の良さが確認される。

『源氏物語絵巻』は、玉鬘十帖の絵であるという点で珍しい特徴を有している。すべて肉筆であり、執筆時期等は明らかではないものの、現在なお色彩が鮮やかに伝わっている。

本調査は、大正大学教育開発推進センター春日と、センター所属のティーチング・アシスタントである林田徹順（『源氏かるた絵合』、三浦諒子（『源氏物語かるた』、小菅あすか（『源氏物語絵巻』、春日科研究協力者）が調査執筆を行った。

### 参考

河鍋楠美 『河鍋暁斎・暁翠伝——先駆の絵師魂！ 父娘で挑んだ画の真髄——』 KADOKAWA 二〇一八年

清水婦久子 『絵入源氏 桐壺巻』 桜楓社 一九九三年

清水婦久子 ホームページ 『奈良で源氏物語』 <http://www.hikariyugao.com/index.html> (二〇一八年十一月一六日閲覧)

塩出貴美子 「源氏物語かるた」考——源氏絵の簡略化・抽象化・象徴化—— 『奈良大学紀要』 第四一号

二〇一三年三月

（春日美穂）

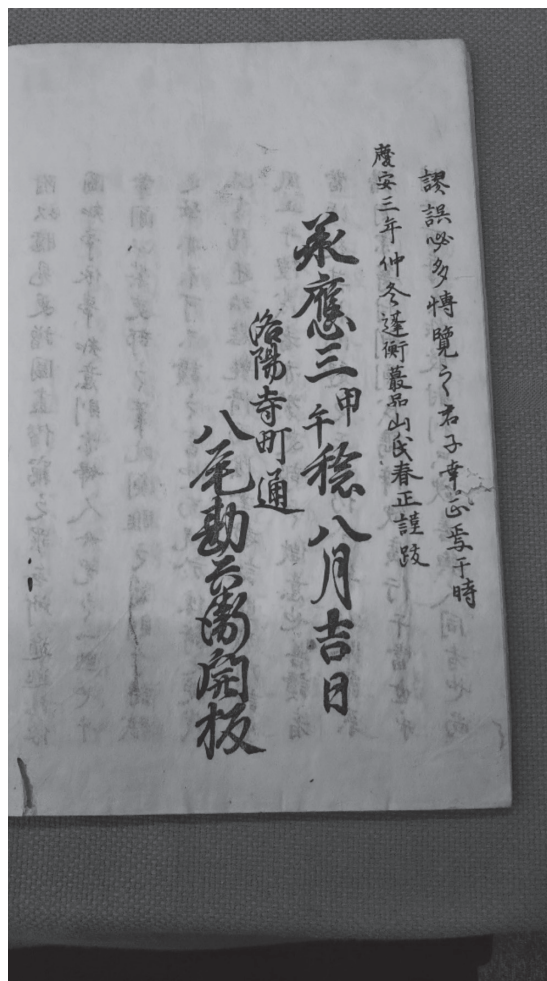
なお、資料名は大正大学図書館の表記に順じている。

一 『源氏物語（承應三「一六五四」）六十卷』（山本春正 承応三年（一六五四）版）

請求番号 913.36/MS-G/1-60

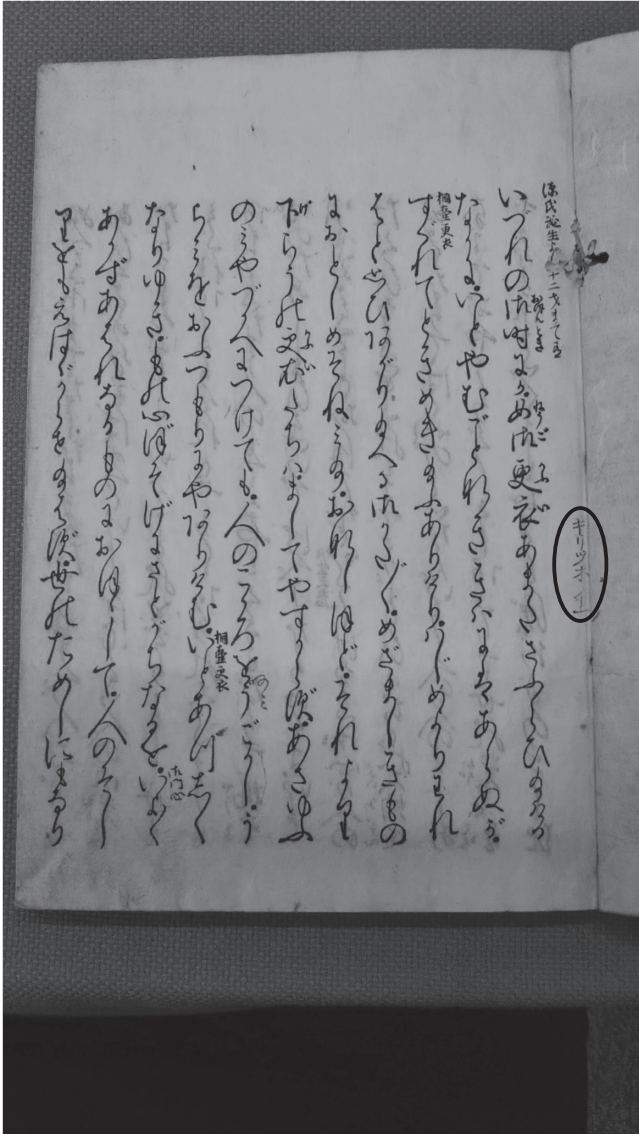
六十卷。縦二十七・三糎、横十八・五糎。「夢浮橋」巻末、『引歌』巻末に、「承應三甲午稔八月吉日 洛陽寺町通八尾勘兵衛開校」（図1）との刊記がある。

図1 「夢浮橋」巻刊記



清水婦久子の調査と分類によると、同じ承応三年版のものでも折り目に丁付けのあるものとノドの部分に丁付けのあるものがあるが、大正大学図書館蔵のものはノドに丁付けのある版式となっている(図2)。

図2 丁付け



『絵入源氏』については、清水婦久子に詳細な報告があるため、以下は大正大学蔵本の特徴について述べたい。特徴は前半の巻に細かい書き入れがあることである(図3、4)。書き入れの中には、辞書の役割を果たしている『源氏目案』(図5)で語を調べ、それを記入したと考えられるものもある。

図3 「桐壺」巻



図4 図3書き入れ部分拡大

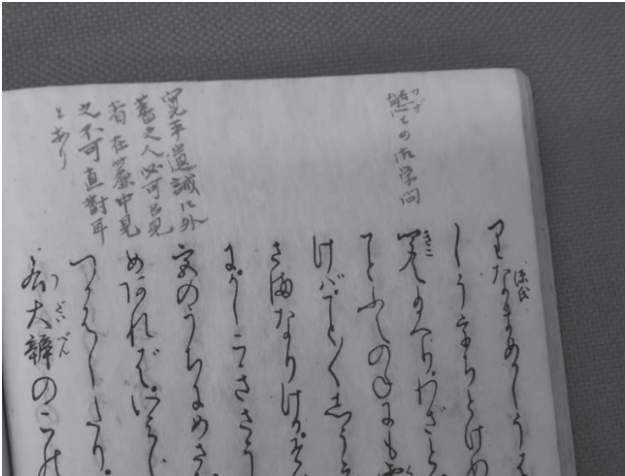
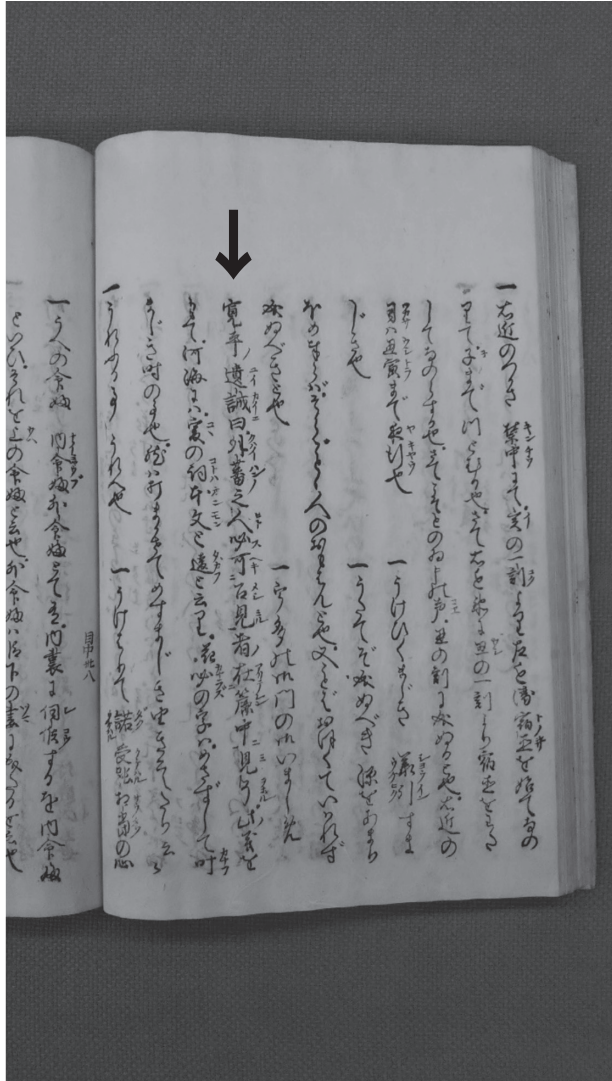


図5 『源氏目案』



書き入れそのものは巻を経ることに減少し、「玉鬘」巻以降はほとんど見られなくなる。しかし、途中までではあっても『源氏物語』を真摯に読んでいた様子が伝わってくる。『源氏目案』等の資料類が一緒になっている『絵入源氏』ならではの書き入れであるといえよう。当時の読者がどのように『絵入源氏』六十巻を享受していたかを理解するための資料として貴重である。

清水婦久子は、『絵入源氏』などの版本について、江戸時代の人々が「源氏物語原文を鑑賞し得る環境があり、その環境の中から、浮世草子などの近世文芸が生まれたのである」と述べる。大正大学図書館蔵本は、そうした江戸時代の人々の息遣いが伝わる版本であるといえる。

## 参考

吉田幸一『絵入本源氏物語考上』青裳堂書店 一九八七年

清水婦久子『源氏物語版本の研究』和泉書院 二〇〇三年

国際日本文化研究センター「承応版源氏物語」[http://shinku.nichibun.ac.jp/genji/about\\_genji.html](http://shinku.nichibun.ac.jp/genji/about_genji.html) (二〇一八年一月一九日閲覧)

(春日美穂)

## 二 『源氏かるた絵合』 一 鋪 (河鍋暁斎画 江戸時代後期) 明治三年以前)

請求番号 913.36/KK-C

一 鋪。縦四十三・〇糎、横五十六・三糎。錦絵(河鍋暁斎画)、卷之意五十四図。包み紙、箱に保管されている(以上図6)。かるた札(巻名人)五十四枚(図7)。包み紙の裏側は裏打ちがなされている。箱の裏とかるた札の裏は同じ紙が用いられている。また「河鍋暁斎」ではなく、「惺々狂斎」という落款が書かれていることから、明治三年以前の作品だと考えられる(図8)。箱の題簽の記載は『源氏かるた繪合』。

「源氏かるた絵合仕様」(東京学芸大学所蔵『源氏かるた絵合』が包まれている紙袋の裏側に記載されている)によ

れば、はじめに五十四枚のかるた札を均等に参加者に配り、「桐壺」巻から「花宴」巻まで八枚と「若菜」巻上下の二枚を持つている人は、錦絵の周りに描かれている「巻之意五十四図」の対応している箇所（箇所）に置く。「桐壺」巻の札を置いた人は、自分が持つていない札の巻名を言う。その巻の札を持つている人はその札を対応している箇所（箇所）に置き、その巻に続く札を持つていればそのまま連続して置くことができる（例えば、「鈴虫」巻の札を置いた人は連続して「夕霧」巻の札を置ける）。それを何回か続け、自分の札がなくなった人が勝ちとなるゲームのようである。

『源氏かるた総合』は大正大学以外に国立国会図書館、早稲田大学、東京学芸大学、河鍋暁斎美術館が所蔵しているが、国立国会図書館、早稲田大学、東京学芸大学に所蔵されている『源氏かるた総合』は作者が洗心斎綾岡である。河鍋暁斎美術館所蔵の『源氏かるた総合』はかるた札が欠落しているため、作成当初の形のまま保存されているという点で貴重な資料となっている。



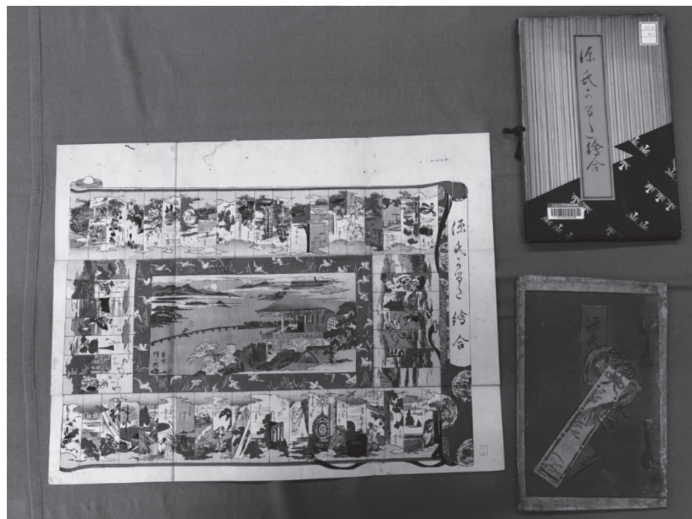


図6 『源氏かるた絵合』、包み紙、箱

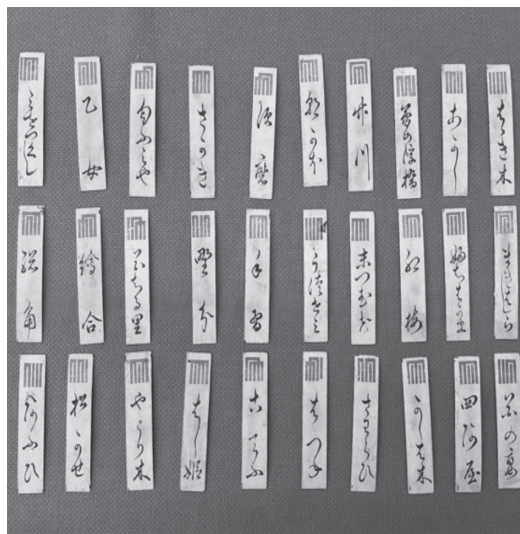


図7 かるた札

図8 図6拡大



應需  
惺々狂斎

参考

東京学芸大学附属図書館・小町谷照彦編「近世庶民教育資料から見た源氏物語——双六・往来物を中心に——」『東京学芸大学附属図書館報』三七 二〇〇九年

塩出貴美子「源氏物語かるた」考——源氏絵の簡略化・抽象化・象徴化——『奈良大学紀要』第四一号

二〇一三年三月

河鍋暁斎美術館 『河鍋暁斎美術館所蔵品目録』 二〇〇八年

(林田徹順)

### 三 『源氏物語かるた』 一組 (成立年未詳)

請求番号 798.0/GM-K

上の句札、下の句札各五十四枚、計百八枚。『源氏物語かるた』は、『源氏物語』の各帖から和歌を一首ずつ取り出したものであり、大正大学蔵のものは一組百八枚が欠けることなく揃っている。上、下の句札はそれぞれ畳紙に包まれ、木箱に納められている(図9、10)。句札は縦八・五糎、横五・七糎。上の句札には和歌と絵、下の句札には和歌が書かれる(図11)。『源氏物語かるた』の上の句札に描かれる絵は、物語の一場面や巻名を象徴する事物などが描かれ、塩出貴美子の調査によると、挿絵に人物が描かれるものと場面を象徴する事物のみが存在するものがある。大正大学蔵のものは、五十四枚全てに人物が描かれている。同じように五十四枚全てに人物が描かれているものとして、大牟田市立三池カルタ・歴史資料館蔵のものがあることが塩出氏によつて報告されている。

図9 木箱、畳紙

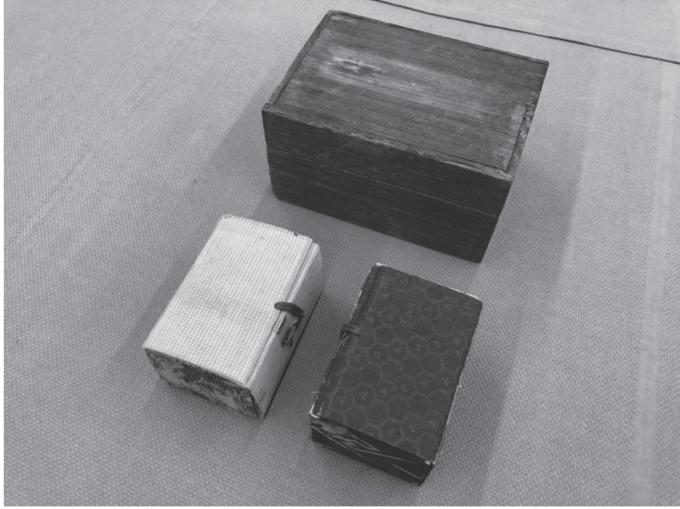


図10 かるた

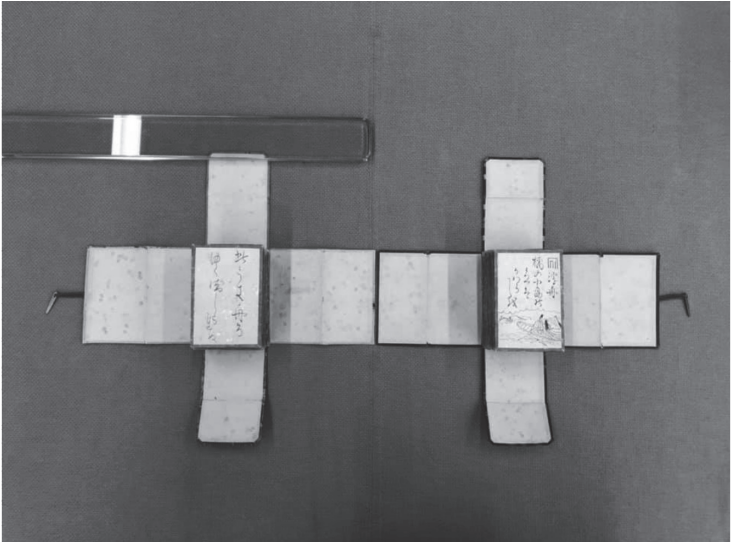
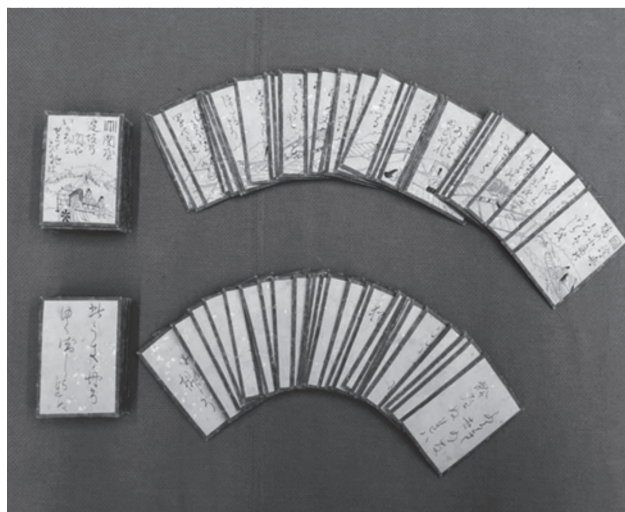


図11 かるた全札



参考

塩出貴美子「源氏物語かるた」考——源氏絵の簡略化・抽象化・象徴化——『奈良大学紀要』第四一号

二〇一三年三月

(三浦諒子)

大正大学図書館蔵『源氏物語(承應三二六五四)六十卷』『源氏かるた総合』『源氏物語かるた』『源氏物語絵巻』解題

一三

## 四 『源氏物語繪卷』 一帖（伝筆、書写年代未詳）

請求番号 913.36/GME

一帖。完本。両面折帖仕立て。納戸茶無地表紙。金地題簽「源氏物語繪卷 完」縦二十八・五厘、横二十一・〇厘。本書は、肉筆の源氏絵が表面に二十葉、裏面に二十葉の計四十葉貼付されている。本文はなく、表面には「野分」巻から「若菜」下巻、裏面には「玉鬘」巻から「行幸」巻までの絵が貼付され、原則として一巻につき一から三葉で描かれている。なお、「藤袴」巻は欠落し、「野分」巻と「行幸」巻にいたっては描かれる絵は異なるものの、表裏に重複している。「若菜」上下巻では順不同に絵が貼付されている。

また、各巻の冒頭の絵には、右上に白地や茶地、黄地など金の施された短冊が貼付され、そこには巻名の由来となる和歌が書き付けられている（図12）。

さらに本書は、外題から完本としてはいるが、『源氏物語』五十四巻のうち、十二巻分の絵であること、表面が「野分」巻、裏面が「玉鬘」巻から始発することなどを鑑みると、もとは五十四巻であったものを一部折帖として仕立て直したものと推定される。しかし、以上のように考えると表裏に重複する「野分」巻と「行幸」巻に問題が残る。

源氏絵を貼付したものとしては、徳川美術館蔵『源氏物語画帖』（土佐光則筆）などが見られるが、本書は「真木柱」巻における鬚黒北の方の惑乱の様子、真木柱が柱に歌を押し込む様子（図13）など、物語上でも印象的な場面が描かれている。

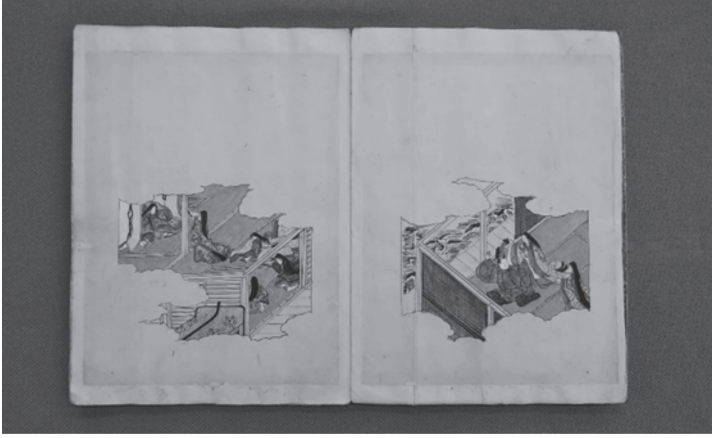
図12 「胡蝶」巻、二葉にわたって六条院船楽の図が描かれ、右面には竜頭鶴首や桜、左面には水鳥や鴛鴦、藤の花など紫の上の春の御殿の様子が窺える。右上に貼付された短冊には、船楽翌日の季の御読経の際に紫の上から秋好中宮へ送られた「花そのの胡蝶をさへや下草に秋まつ虫はうとくみるらん」歌が書かれている。同様の場面を描いたものとしては、和泉市久保惣記念美術館蔵『源氏物語手鑑』（土

佐光由筆）などがある。



図13 「真木柱巻、右面は玉鬘のもとへ通おうとする鬚黒に北の方が灰を浴びせかける図。ここでは、傍らに木工の君の姿も描かれている。左面は邸を去る真木柱が柱の割れ目に歌の書かれた紙を押し込む図。周りの女房たちは悲嘆し、外には車が待機しているなど、真木柱一行の切迫した様子が読み取れる。同様の場面を描いたものとしては、ハーヴァード大学美術館蔵『源氏物語画帖』(土佐光信筆)、浄土寺蔵『源

氏物語扇面散屏風』などがある。





## 参考

稲本万里子『源氏絵の系譜 平安時代から現代まで』森話社 二〇一八年

(小菅あすか)

## おわりに

今回の調査による成果は以下のとおりである。

- ① 『絵人源氏』 承応三年版の完本が大正大学図書館に所蔵されていることを確認し、あわせてその特徴を明らかにした。
- ② 大正大学図書館が所蔵する『源氏かるた絵合』が河鍋暁斎作のものであることを明らかにした。あわせて、その状態が現在日本で確認できる河鍋暁斎作の『源氏かるた絵合』のなかで最も状態が良いものであることを明らかにした。
- ③ 大正大学図書館が所蔵する『源氏物語かるた』が、絵札すべてに人物を描いたものであり、また、札の欠けなどもないため、『源氏物語かるた』研究の一端を担うものであることを明らかにした。
- ④ 『源氏物語絵巻』が大正大学図書館に所蔵されていることを確認し、あわせてその特徴を明らかにした。

以上の四点はすべて『源氏物語』の享受史にかかわる資料である。『絵人源氏』には、『源氏目案』を参照したと考えられる書き込みがあり、当時の読者が、『源氏物語』を娯楽作品としてのみ享受していただけではなく、積極的に学ぼうとしていた姿が浮かび上がる。それはまた、『源氏物語』が「かるた絵合」「かるた」という形で享受されていることともつながる。ゲームとして取り入れられるほどに身近な作品である一方で、「かるた」は各巻の代表歌をすべて暗記していることが勝敗をわけるとなっている。「かるた絵合」についても、巻名の順番を覚えていた方がゲームをより楽しめるようになってきている。もちろん、これらは美術品としての側面もあり、大正大学図書館所蔵の二点の保存状態の良さを考えても、実際にゲームとして使用されていたかは検討の余地が残る。しかし、こうしたゲームが

生まれる背景そのものに、『源氏物語』を作品として愛し、親しむ一方で、教養の一部として享受していた近世以降の享受史の在り方が浮かび上がってくるのである。『源氏物語絵巻』についても、すべて肉筆であり、元は嫁入り道具などの高価なものであったことが推測される。以上、報告を行った四点の資料は、『源氏物語』が多くの人々から愛され、広く享受されてきた事実の一端を示すものであるといえよう。

今回の調査対象とした四点の資料はいずれも、保存状態が良い、現存同資料がない・少ないという点で貴重なものである。本稿を端緒として大正大学図書館所蔵であることが今後広く周知され、享受史の一翼を担っていくことが期待される。

(春日美穂)

## 付記

本稿の調査執筆にあたり、河鍋暁斎美術館、河鍋楠美氏より様々にご教示をいただいた。資料については大正大学文学部大場朗先生にご教示をいただいた。また、大正大学図書館、同古川真理氏にもご教示、ご尽力をいただいた。記して謝辞とする。

本稿は、JSPS科研費「P17K13394」の成果である。